



AA日本ニューズレター

No.177

■新任のA類、B類常任理事挨拶

多くの方に酒害を知ってほしいと願っております。

----- A類常任理事 小山 茂

平成28年4月1日付けにてAA日本常任理事に就任させていただく事になりました小山と申します。どうぞよろしくお願い致します。私がAAを知ったのは、生活保護法の更生施設で利用者の支援の仕事をした昭和56年4月でした。

施設の利用者の方々と多くの出会いがあり、施設で仕事を続けて35年という時間が過ぎましたが、現在も更生施設や自立支援センターやその他の施設にはアルコール依存症の治療をしている方々ばかりではなく、アルコールによって体の病気で苦しんでいる人々や様々のアルコール問題で路頭に迷った方も施設に入所しております。

私がアルコール問題に関わるソーシャルワーカーとして学んだのは飲酒運転・失業・離婚・暴力などアルコールが原因で生じたこれらの問題を「アルコール関連問題」と分類し、アルコールによって糖尿病や肝障害など体の病気を「アルコール関連疾患」と分類します。アルコール依存症と並んで、これらの状態もアルコール問題の治療の対象であると考え、研究を進めて参りました。

これらのアルコール問題は病院や警察や児童相談所や裁判所や消防署など、多くの関係機関の方々にAAに関心を持ち、AAメンバーの声を聴いて欲しいと思っています。

何故ならアルコール問題は見えにくく、形を変えて様々なところに波及するものです。

どうしても飲みたい人は正直に話をすることはありません。

アルコール問題に向き合うためには、アルコール問題を正しく理解し、様々な職種の方との連携が必要なのです。だからアルコール問題を認め、断酒を続け、自分の問題に向き合っているメンバーの話を聞いて欲しいと思っています。

またアルコール問題は呑む本人だけの問題ではなく、巻き込まれた家族やお子さんも種々の問題で悩み、生活に困っている方々が施設を利用していますが、施設の支援はこれら全ての方々の支援が仕事です。アルコールの害は本人だけの問題ではなく、代々と継続される家族の問題が見えて来て、家族の回復の支援にも取り組んで参りました。

私はそのようなアルコール問題の拡がりを永年見て参りましたが、今回、お声をかけていただき、最後のお手伝いとしてAAの皆様とAAの発展のために尽力を尽くして参りたいと思いますのでよろしくお願い致します。

人との繋がりが薄れて、現代社会で生じている様々な問題や悩みを打破するのに必要なものは「絆」であると多くの人に言われるようになってきましたが、アルコールの世界でも、「Addiction」(嗜癖)の反対の概念が「Connection」(連携)であると唱える方もおります。今年度の評議会テーマが「信頼という名の絆〜フェロウシップ(仲間意識)〜」になったこともタイムリーな選択であったと思います。

人との繋がりはアルコール依存症の最良の治療法ですし、多くの

方が飲まない生き方を続ける為にももっと多くの人にAAの事を知ってほしいと心から願っています。

私の身の周りでも自分では酒害を気がつかないまま亡くなって逝った方や家族や家そのものが減ってしまった事例をたくさん見てきましたが、そんな悲劇をなくすためにも多くの方に酒害を知ってほしいと願っております。

そして、私は断酒によって新たに爽やかな生き方をされているメンバーの方々に勇気づけられ、元気をいただき感謝しておりますが、これからも皆様から多くの事を学んでいきたいと楽しみにしております。

皆さん良い知恵を授けてください、よろしくお願い致します。

----- B類常任理事 滝谷

2月の評議会にて東日本圏選出枠で信任された北海道地域、江別G所属(ニックネームとしお)です。簡単な自己紹介をさせていただきます。32歳で家庭崩壊・精神病院入院と当時としては早い底つきだったと思います、1回の退院後35歳でAAを知ったのですが病気を受け入れられずAAを離れ再度入院でした。社会を諦めたのですが主治医が北海道にAAを伝えた神父さんからメッセージを受けていたお陰かもう一度酒をやめてやり直すように言われ退院できました、丁度40歳でした。

中間施設入所、1日3回のミーティングを経て社会復帰出来ました、その後は一度目の失敗を繰り返さないよう必死に仲間会い続け、サービス活動が続けることにより継続が可能だと考え、やってみないかと言われた役割は概ね受けさせていただきました。

そんな私にとっての転機は大宮で開催された20周年でした。初めての全国代議員集會に私も参加し評議会開催決議は熱気に押され賛成し、又立派な会場に全国から仲間が集まり本当に楽しいものでした。この集會のために2年前から実行委員会を立ち上げ、その仲間たちのお陰で成り立っていることに感激しました。

この頃、北海道地域のサービス活動は停滞気味でした。年2回の集會での代議員の参加率は毎回ほぼ100%だったのですが、

オフィスがなく地域委員が書籍を管理したり、JSO との連絡は私書籍扱い、無人の部屋に留守番電話を置き定期的に聞きにいったりと特定のメンバーに負担の係るものでした。その過重負担からか集会で地域委員のなり手が無いのなら地域のサービスは凍結と全会一致で決まりました。しかし集会の存続・有志による書籍の管理は続けられました。当時のことを今振り返ってみると仲間個人の対立が尾を引いていたと思います、意見を論じ聞くのでは無く、あの仲間が言うてるから嫌だ、全てが反対だと、それなら止めてしまえと極論になったような感じを、当時代議員として参加していた私には映っています。

その後、私は札幌地区委員としてサービス活動に関わり各地のセミナーに参加し続け親しい仲間も増えていきました。そのうちに地域のサービスが凍結し何が困るか話し合っているときに、あの2泊3日のラウンドアップが出来ないのが一番困るという話から、それなら札幌地区でやろうという事になり2年近くの準備期間を経て開催することになりました。私が実行委員長で大勢仲間が委員として関わってくれました、3年ぶりのラウンドアップという事で道外から大勢の仲間が参加してくれました。終了時に皆を見送ったときに、やってよかったと本当に心地よい感覚は今も忘れられません。

この頃にオフィス準備委員会も立ち上がり、地域委員会の再開・オフィス設立と北海道地域のサービス活動は活発になっていきました。私もその中で何らかの形で関わられたことを非常に嬉しく思っています。評議員時代に JSO スタッフに帰り際に言われた、北海道に帰り評議会報告を楽しくできたらいいねと、その通りだと感じましたが当時の私は評議会の内容が余り理解できていなかったのも楽しさはさほど無かったです。

最後に理事をやってみないかと言われた時の話です。昨年の春仲間から今度立候補しないかと打診されたときに躊躇はしましたが仕事も65歳で終了、時間はたっぷり有り北海道地域の役割は一通り終了、40周年では3年余りも苦勞された実行委員会から、おいしい場面(フラッグ行進の司会)までさせていただき申し訳ないとの思いから、道内の親しい仲間と相談し立候補を決意させていただきました。40歳からの再スタートを AA 活動とともに過ごさせていただき、少ない年金生活ですが AA 活動から離れるとやはり駄目ですね、きっとプログラムが身に付いていないのか生活が乱れます。

今は理事の役割を理解できているとは思いませんが、評議会の報告事項を役割の範囲で遂行していかねばと考えています。NPO 法人の事も今後大勢の仲間と話し合っていきたいと思っておりますので、皆さん良い知恵を授けてください、よろしく願います。

与えてもらった役割の喜びとか苦しみを味わいながら

B類常任理事 夏井

第21回の評議会で B 類常任理事として信任して頂きました関東甲信越地域、川崎地区、いなほグループの夏井と申します。これからの任期の間よろしく願い致します。

58歳になります。“あなたはアルコール依存症です”、と言われたのが29歳の時、地元青森の精神病院(もちろん閉鎖病棟)、そこから10年間アルコールと戦い続けて大都会の東京にまで出て来ましたが見事に敗北の連続でした。その間6回の精神病院の入退院を繰り返す、AA にも来たり来なかつたりで、中々酒を手放して本気で止めた

と思うまで時間がかかりました。いつも自分の狂った頭で考え、いつもそれだけを信じて生きてきた結果でした。

何も無くなり本当に底をついて初めて AA にすがりつき酒をやめた、何でもします、助けて下さいと必死に願ったのが39歳の時でした。いわれるままにグループの会場チェアマンから始まりあらゆる役割、サービスをやらせてもらいました。そして地区、地域、CO 委員、評議員と続けて行く道々でフェロー、セミナー、ラウンドアップと何かしらのサービスに関わってきました。

AA を知って20数年、多くの仲間と出会い、分かち合い、そしてお別れもしました。昨年は40周年の記念集会にも関わることが出来て、又一つ大きな喜びと感動を頂きました。

振り返れば AA の中において、最初は反発、反抗もしましたが、納得いかない事や向き合う事さえ嫌な事も多々ありましたが、その都度スポンサーをはじめとした先を歩く仲間や、いつもの仲間達が教えてくれ支えてくれました。ステップや伝統はいつでもどんな時にでも使えるしそこにある事、述べ伝える事の大切さや、AA の原理の大事さ、認めて信じてお任せですね、と、・・・2年間、行政のお世話になってから社会生活にも復帰しました、同じ職場で17年経ちます。家庭も再び持てました。想像が出来なかったジジにもなりました。AA があったからこそ今こうして幸せに生きているのだと言う事が出来ます。感謝ですね。

昨今、よく AA の中で言われているし聞こえてくる一つの中にメンバーが増えないという事があります。本当にそうでしょうか、確かに献金額とか BOX を含んだ書籍の頒布実績等とかの周りの状況だけを見ればそうかも知れませんが、私としては一概にそうとは言い切れない様な気もしています。私のソーバーが始まった頃の関東甲信越地域には130グループがありました、今はその倍にあたる260グループが登録されています。その他にも、アルコール健康障害対策基本法、NPO 法人に関する事とか、まだまだ話し合っていかなければならない課題も多くあるかと思いますが、サービスは一人でやるものではないと、ずーっと信じてやってきましたので、これからもたくさん方の知恵と経験をお借りしながら出来る事に向き合っていこうと思っています。

又、まだ会ったことの無い全国の仲間にも、自分の時間とお金と労力の許す限り会いに行こうと思っていますが、何せ高い所が駄目で生まれてこのかた飛行機に乗った事はありません。今年は覚悟を決めて飛行機に乗る事にしました。まずは手始めに4月の奄美大島への挑戦です。仲間の所へ連れて行ってもらう事になりました。この挨拶文がニューズレターに載っている頃にはほっと一息をついて笑っているとは思っています。

AA が日本でスタートして40年、私が18歳の時です、一生懸命飲んで騒ぎ始めた頃です。まさか今こうして AA の中で多くの宝物を頂いて生きている事が不思議に思えます。そして自分自身が飲まない今日一日を続け、まだ苦しんでいる仲間にも少しでもメッセージを届ける。シンプルに12ステップに沿い、12の伝統を守りながら与えてもらった役割の喜びとか苦しみを味わいながら楽しんでいきたいと思っております。微力ですが、精一杯やっていきたいと思っております。今後ともどうぞよろしく願い申し上げます。

入った当時の気持ちがよみがえって来ました。四国の田舎者の大都会に対するコンプレックス。しかし初めてお会いするJSOスタッフ、評議員仲間からのやさしい声掛けには非常に助けられました。

第2分科会に参加して思った事は、常々私も思っていたAAの日本における認知度の向上についての議題もあり、日本各地の仲間も同じように感じているんだなあと思いました。また議題全体については、多くのメンバー、多くのグループを抱える地域と地方の地域の意識に大きな温度差があると思いました。

最後に今回初めて評議会に参加して思った事は、毎年各グループに送られてくるAA日本評議会報告書にも掲載されている『AA成年に達する』の422頁(何故、評議会が必要なのか?)が心に沁みてきたと言う事です。これから評議会と各地のグループ、メンバーのパイプ役として努力して行きます。

やる気の鍵をもって行動に移す。評議員は怖くない！

第3分科会議長 片岡
当たり前ですが評議員になって初めて参加しました。

私は関東甲信越地域ひがし城西地区豊島グループのメンバーです。グループでは会場係から始まり、グループの代議員、地区議長、地区委員、地域ではラウンドアップ委員長を経て、昨年2015年第2回関東甲信越地域集會にて評議員選出の選挙で選ばれました。

評議会初日は遅刻をしないように気を付けて家を出ましたが、お腹が空いたので途中の乗り換えの駅で立ち食いそばを食べてから幕張セミナーハウスに行きました。私は人見知りする性格上の欠点が多くなかなか治りません。初めて会う常任理事、他各地域選出の評議員との顔合わせも緊張しっぱなしでした。

評議員オリエンテーションから始まり幾つかの全体会議があり、あつという間の3日間という感じでした。

何だか評議会の雰囲気から飲まれて緊張していたのが本当の処です。初日の全体会議の中で何でもいから発言をしようと思いきマイクの前に立って質問をしましたが、訳のわからない事を言っていた様な気がします。以前に評議員経験者から何でもいから初日に発言すると気持ちが楽になるよ！と言われた事を思い出して勇気を振り絞って発言してみました。

第21回全国評議会では議案が多いと始まる前から聞いていたのですが、自分の受け持つ第3分科会も審議が全部出来ませんでした。

第3分科会の議題で大型版ハンドブックを作って欲しいという議案について分科会で審議をしている最中、ふと自分がここにいる事に霊的な物を感じる事が出来ました。

その後2日目の全体会議に入り第1分科会の審議に入りA類常任理事、B類常任理事、前期評議員、後期評議員の活発な質疑応答を聞いて回復、一体性、サービスの正三角形が自分の中に自然に入って来た感じです。

思えば昨年2015年第2回関東甲信越地域集會で立候補した自分に一票を投じて下さった仲間へ感謝です。(ロボット評議員にはなりません)

第21回全国評議会に参加して得たものはここに日本のAAの良心があると言う事です。やる気の鍵をもって行動に移す。評議員は怖くない！

■ 国際協力献金のお願い

(6月10日が今年も近づいてまいりました。)

国際協力委員会

AA記念日である6月10日が今年も近づいてまいりました。82年前のこの日から、ドクター・ボブのソプラエティは始まりました。私たちAAメンバーのソプラエティもここから始まっているという考え方から、世界中のAAがこの日をAAの誕生日として大切にしています。

日本でも、この日を挟む前後一週を「国際協力ウィーク」として、毎年、献金を呼びかけています。みなさんのソプラエティへの感謝を、できる範囲でお寄せください。お預かりした大切な献金は、国際出版基金や国際ミーティングへの参加、国際的なサポートに充てられます。

郵便局振替口座

口座番号：00180-0-68876 加入者名：AA JSO

通信欄：「2016国際協力献金/グループ名」と明記

～ 国際出版基金とは ～

AAの出版物を翻訳したり購入する資金が調達できない国に対して、活動開始に必要な出版物を供給するための基金です。1979年に日本で発行されたビッグブックも、その印刷費用はニューヨークGSOからの援助でした。

現在、69か国語のビッグブックが発行されており、17言語が翻訳準備中です。その他のAA書籍は、92言語で利用することができます。2014年には、トゥイ語(ガーナ)とルガンダ語(ウガンダ)、アラビア語(複数の国)のビッグブックが完成しました。

共同創始者のビル・Wは、1968年、ビッグブックをはじめとする基本的な書籍を用意することの重要性について、次のように書き残しました。「この一冊の本(ビッグブック)と、これに続いて書かれた本や多くのパンフレットのおかげで、AAのメッセージは歪められることなく、世界中に伝えることができるようになった。このようにして、AAの一体性と実用的な有効性を強固なものにするための努力が始まったのである」

国際出版基金は、AAへの愛が行動となって表れる場所です。寄せられた献金すべてが、翻訳と出版支援に役立っており、利用できるAA書籍の言語が多ければ多いほど、たくさんの命を救うことができるのです。みなさんの「献金箱に入れられた犠牲」によって、AAの希望のメッセージが世界中に運ばれ、まさに、AAの一体性と発展を確かなものにしていきます。

編集：ニューズレター編集委員会・発行：NPO法人AA日本ゼネラルサービス

〒171-0014 東京都豊島区池袋 4-17-10 土屋ビル 3F Tel:03-3590-5377 Fax:03-3590-5419

http://www.aajapan.org jso-1@fol.hi-ho.ne.jp

(月～金)10:00～18:00 (土・日・祝) 休